

総合的競争力で今年も伸びる大学生協

全国大学生生活協同組合連合会
会長理事 庄司興吉

皆様、新年おめでとうございます。会長理事3年目の庄司です。

グローバル化が引き続き激しい勢いで進むなか、協同組合の存在理由も高まってきています。巨大な資金や組織が世界を股にかけて利潤追求に走るなか、それらに抗し、自らの力で自らの生活を守り、改善していこうとする人びとの力も強まってきているのです。昨年10月にはシンガポールで国際協同組合同盟の総会が開かれ、世界中でいろいろな協同組合に入っている人の総数が8億人にも上ること、主な協同組合や相互会社300の総供給高が1兆ドルをも超えること、などが確認されました。

大学生協はこれらに較べれば小さな協同組合にすぎませんが、学生を主な組合員とし、日本の多くの大学の福利厚生や関連事業を行ってきているという点で、他の国に類例を見ない存在感を世界に示してきています。今、日本の大学は、市場化と少子化の流れにさらされて生き残りに必死で、生協と一般企業とを天秤にかけ、キャンパスの改善をめぐって競争させようとしています。大学生協にとってはこれも好機です。

少なくない大学指導者が勘違いしていますが、生協は、一般企業と並べられて比較されるような「企業」ではありません。生協は、学生、院生、留学生、教職員という大学構成員によってつくられている協同組合であり、大学構成員の経済的ニーズだけでなく、社会的文化的な要求や希望も汲み上げている、大学にとっていわば内的な組織であり事業なのです。大学生協は、こうした内的なあり方からくる、たんに経済的にとどまらず、社会的にも文化的にも広がりや深まりを持つ競争力を、もっと自覚し発揮していきたいと思っています。

総合的な競争力で今年も伸びていこうとする大学生協を内外から大いにご支援下さい。

(コープニュース2008年頭所感-071217)